

# 食と緑の基本計画2025

～食と緑が支える豊かな「あいち」をめざして～

(素案)

【概要版】

2020年10月  
愛知県

# 1 食と緑の基本計画2025について

## ■ 趣 旨

「食と緑が支える県民の暮らし条例」第7条に基づき知事が定める、食と緑に関する県の施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針として策定します。

## ■ 性 格

基本計画は、県が重点的に取り組むべき政策を示した「次期あいちビジョン」の方向性に沿った計画であり、国の戦略、計画なども踏まえたものです。

## ■ 計画期間

期間は、2021年度からの5年間とし、2025年度を目標年度とします。

# 2 食と緑に関わる現状と“めざす姿”

## ■ 現状と課題

人口減少局面における担い手の確保	県産農林水産物の消費拡大
革新的な新技術の社会実装による生産性向上	農林水産業への理解促進
経済のグローバル化に対抗しうる競争力の強化	地球温暖化等の気候変動への適応
脅威を増す感染症への対策	農山漁村の維持・活性化に向けた“関係人口”の創出
SDGs達成に向けた持続性の高い生産を推進	

## ■ 今後5年間で特に重視すべき視点

- ▷視点1 人材の確保と生産性の向上
- ▷視点2 持続可能な農林水産業・農山漁村の実現

視点を重視した施策を展開

## ■ 2025年にめざす姿と目標

緊急プロジェクト

新型コロナウイルス対策

	めざす姿	目 標 ( )内は現状値	重点 プロジェクト	施策体系
生産現場	持続的に発展する 農林水産業の実現	農業産出額 3,150億円 (3,115億円) 2014-2018平均	農業の 生産力強化	生産の柱
		県産木材生産量 18.0万m <sup>3</sup> (13.9万m <sup>3</sup> ) 2019年	林業の 生産力強化	
		漁業産出額 410億円 (390億円) 2014-2018平均	水産業の 生産力強化	
暮らし	農林水産の恵みを 共有する社会の実現	県産農林水産物等を優先して購入したい 県民の割合 25.0% (15.4%) 2020年	需要拡大・ 魅力向上	暮らしの柱
		農山村地域の防災・減災面積 5年間で6,500ha	地域の 防災・減災	

### 3 施策体系と主な取組

“めざす姿”の実現に向けて、産業（生産）施策と地域（暮らし）施策を車の両輪とし、2本柱の下でバランスよく取り組みます。

食と緑が支える  
県民の豊かな暮らし

#### 《柱1：生産の柱》持続的に発展する農林水産業の実現

##### (1) 意欲ある人材の確保・育成

- ア 農業を支える多様な人材の確保・育成
- イ 林業を支える担い手の確保・育成
- ウ 水産業を支える担い手の確保・育成

##### (2) 生産性の高い農林水産業の基盤を作る取組の充実

- ア 新技術・新品種の開発と普及
- イ 農林水産業を支える生産基盤の整備と環境づくり
- ウ 産地の体制や生産設備の強化
- エ 食の安全・安心の確保

##### (3) 新たな需要を創造し持続可能な農林水産業の実現

- ア マーケット・インの視点に立った生産・流通の改善
- イ 農林水産物等に関する国内外での需要の開拓
- ウ 環境との調和に配慮した持続可能な農林水産業

#### 《柱2：暮らしの柱》農林水産の恵みを共有する社会の実現

##### (1) 農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進

- ア 県産農林水産物への理解を深める取組の推進
- イ あいちの農林漁業を応援・体験し参加する機会の提供
- ウ 幅広い世代に対する食育の推進

##### (2) 災害に強く安全で快適な環境の確保

- ア 農山漁村地域の強靱化に向けた防災・減災対策
- イ 快適な生活環境の確保
- ウ 暮らしを支える森林・農地・漁場の整備

##### (3) 地域住民や関係人口によって支えられる活力ある農山漁村の実現

- ア 地域の特性に応じた農山漁村の活性化
- イ 多面的機能の持続的な発揮につながる活動の推進

## 《柱1：生産の柱》持続的に発展する農林水産業の実現

### (1) 意欲ある人材の確保・育成



#### ア 農業を支える多様な人材の確保・育成

- 新規就農者の確保・育成
- 産地の中核を担う基幹経営体や生産部会組織の発展と円滑な経営継承を支援
- 雇用就農や農福連携、外国人材などの農業経営を支える多様な人材の活用を推進

#### イ 林業を支える担い手の確保・育成

- 新規林業就業者の確保及び技術レベルに応じた研修等の実施
- 高性能林業機械の導入支援等による林業経営体の育成・経営基盤強化

#### ウ 水産業を支える担い手の確保・育成

- 新規漁業就業者の確保・育成
- 新しい養殖業導入や制度資金活用などにより漁業経営安定化に向けた取組を推進

### (2) 生産性の高い農林水産業の基盤を作る取組の充実



#### ア 新技術・新品種の開発と普及

- 農林水産業の多様なニーズに応える新技術や新品種を開発
- 研究成果の戦略的な普及の推進により社会実装を加速化

#### イ 農林水産業を支える生産基盤の整備と環境づくり

- 農地の大区画化や林道、貝類増殖場等の整備を推進
- 担い手への農地の集積・集約化、森林施業の集約化、鳥獣被害への対策、農林漁業関連施設の長寿命化や耐震化などを推進

#### ウ 産地の体制や生産設備の強化

- 産地の体制強化や農地等の合理的な活用、施設等の整備・導入などを総合的に推進
- 感染症発生等の不測の事態が発生しても対処し得る力強い農林漁業経営体の育成

#### エ 食の安全・安心の確保

- 安全・安心な農林水産物の生産や加工が行われるための取組を強化
- 消費者が安全な食品を購入できるよう監視・指導を行うとともに、食の安全に関するリスクコミュニケーションを推進

### (3) 新たな需要を創造し持続可能な農林水産業の実現



#### ア マーケット・インの視点に立った生産・流通の改善

- 需給情報の把握や発信
- “新しい生活様式”にも対応する新たな流通経路の構築などにより、県産農林水産物を消費者の下へ届ける生産・流通の仕組みを整備

#### イ 農林水産物等に関する国内外での需要の開拓

- 県開発新品種のブランド化、トップセールス等によるPR、木材利用分野の拡大、新商品開発支援などを実施
- 輸出に取り組む事業者の支援や知的財産保護、インバウンド需要への対応の取組を推進

#### ウ 環境との調和に配慮した持続可能な農林水産業

- 生産活動による環境負荷を軽減し、森林・農地・漁場の有する多面的機能が発揮される活動を支援
- 適切な資源管理により農林水産業の持続可能性を高める取組を推進

## 《柱2：暮らしの柱》農林水産の恵みを共有する社会の実現

### (1) 農林水産を理解し身近に感じる活動の推進



#### ア 県産農林水産物への理解を深める取組の推進

- 本県独自の取組である「いいともあいち運動」を一層推進
- 農林水産業関係団体等と連携した啓発イベントや講座などの取組を推進

#### イ あいちの農林漁業を応援・体験し参加する機会の提供

- 県産品の購入・消費を促進
- 学校での体験学習、各種団体との連携による農林漁業体験の取組を支援

#### ウ 幅広い世代に対する食育の推進

- 食育推進ボランティアとの連携による食育の推進
- 様々な機会をとらえて行う食育の推進

### (2) 災害に強く安全で快適な環境の確保



#### ア 農山漁村地域の強靱化に向けた防災・減災対策

- 農業用ため池や農業用排水機場等の耐震対策や豪雨対策を推進
- 治山ダム工や土留工などの治山施設の整備を推進
- ため池ハザードマップや山地災害危険地マップの活用の促進

#### イ 快適な生活環境の確保

- 生活の基盤にもなる農林道や里山林などの整備・保全を推進
- 木材や緑の持つ「癒やし」、「安らぎ」を生活環境に取り入れる取組を推進

#### ウ 暮らしを支える森林・農地・漁場の整備

- あいち森と緑づくり税等を活用した森林等の整備・保全を推進
- 農地や漁場環境の改善等に資する整備・保全を推進

### (3) 地域住民や関係人口によって支えられる活力ある農山漁村の実現



#### ア 地域の特性に応じた農山漁村の活性化

- 中山間地域や都市部の農業の振興
- 「愛知県産ジビエ」のPR、グリーンツーリズムや森林レクリエーションなど地域の特性に応じた取組への支援
- 「半農半X」を実践する者などの多様な人材の確保や住民と共に地域を支える“関係人口”の創出を推進

#### イ 多面的機能の持続的な発揮につながる活動の推進

- 森林、農地、里山、漁場や河川における地域住民による保全活動を促進

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) の17の目標と関連のある項目について、SDGsのアイコンを表示しています。

## 4 プロジェクト

「食と緑の基本計画」では、施策体系に掲げた取組を総合的かつ計画的に推進するとともに、関連する取組を効果的に組み合わせる展開を図るため、各種の取組をパッケージ化し、プロジェクトとして効果的に推進していきます。

### ■ 緊急プロジェクト

新型コロナウイルス対策 ▶ 魅せよ愛知の底力、コロナ禍克服プロジェクト

新型コロナウイルス感染症とそれに伴う経済環境の悪化は、農林漁業者の経営や農産物等の流通、消費に大きな影響を与えました。この状況から速やかに脱却し、今後、同様の不測の事態が発生しても影響を最小限に抑える必要があります。

緊急プロジェクトとして、新型コロナ感染拡大によるダメージ克服と「新しい生活様式」への対応に取り組みます。

### ■ 重点プロジェクト

基本計画の5つの目標を達成するために、『農業・林業・水産業の生産力強化』『県産農林水産物の需要拡大と農山漁村の魅力向上』『農山漁村地域の防災減災対策』をテーマとして、5つの重点プロジェクトを設定します。

目 標 ( )内は現状値	テーマ	重点プロジェクト
農業産出額 3,150億円 (3,115億円) 2014-2018平均	生産力 強化	技術力×人材の活躍で 切り開く農業生産力向上 プロジェクト
県産木材生産量 18.0万m <sup>3</sup> (13.9万m <sup>3</sup> ) 2019年		持続可能な社会に向けた 「あいちのスマート林業」 実現プロジェクト
漁業産出額 410億円 (390億円) 2014-2018平均		豊かな海の再生に向けた漁業 生産力強化プロジェクト
県産農林水産物等を優先して 購入したい県民の割合 25.0% (15.4%) 2020年	需要拡大・ 魅力向上	アジア競技大会に向けた あいちの農林水産業 魅力向上プロジェクト
農山村地域の防災・減災面積 5年間で6,500ha	地域の 防災・減災	安全・安心な暮らしを守る 農山漁村地域防災・減災 プロジェクト

新型コロナウイルス対策

魅せよ愛知の底力、  
コロナ禍克服プロジェクト

新型コロナウイルス感染症とそれに伴う経済環境の悪化は、農林漁業者の経営や農産物等の流通、消費に大きな影響を与えました。この状況から速やかに脱却し、今後、同様の不測の事態が発生しても影響を最小限に抑えるための取組を生産・消費の両面から進めるとともに、いわゆる“新しい生活様式”の下での消費習慣の変化を踏まえた新たな流通・消費の仕組み作りなどに取り組みます。

生産面における影響克服と対応力強化

- 栽培品目の転換や経営の多角化
  - ・ ニーズを踏まえた花き品目等への作目転換、出荷方法の検討や新たな需要を喚起する花き新品種の開発
- 労働力の安定的な確保
  - ・ 労働生産性を向上させ、労働力不足にも対応する自動化・省力化のためのスマート農業技術の実証と産地導入の推進
- 危機管理体制の強化
- 林業生産体制の強化
  - ・ ICT等を活用した木材需給システムを導入することで、木材の生産流通体制を強化し、非常時においても木材生産を維持
- 漁業生産体制の強化
  - ・ 栽培漁業の生産魚種の増加や新たな養殖業の導入、安定需要が見込めるノリ養殖の施設整備などを推進

消費面における販路の多様化や新規需要の拡大

- 販路の多様化や新規需要の拡大
  - ・ 一時的な落ち込みから回復した需要をしっかりと取り込むため、県産農林水産物の新たな販路開拓を実施
- 新しい生活様式への対応
  - ・ 新しい生活様式に対応した産地直売所づくりへの支援
  - ・ 日常生活に花きを取り込む運動の推進や従来とは異なる消費構造の新規需要の創出に取り組む
  - ・ 生活空間に木材を取り入れた「木のある快適な暮らし」を普及するなど、新しい生活様式に対応した県産木材の利用を促進

等

農業の生産力強化

技術力×人材の活躍で切り開く  
農業生産力向上プロジェクト

全国有数の生産規模を持つ施設園芸の高度化に向けた「あいち型植物工場」の普及や次世代の農業技術である“スマート農業”の開発と現場実装など、技術力による生産性の向上や農産物の高品質生産を一層進めるとともに、それらの先端技術を使いこなすハイレベルな生産者・産地の育成や農業生産力の要である生産基盤の充実強化を図り、新型コロナ等の不測の事態にもしっかりと対応しうる、足腰の強い産地を育成します。

- スマート農業の現場実装
  - ・ 開発から普及までの問題解決型連携によりスマート農業技術の開発と実装を迅速化
- 担い手や産地のレベルアップ
- 農地等基盤の整備と担い手への集積
  - ・ 農地の大区画化や汎用化の推進

等



オートトラクタの実証

目標：農業産出額 3,150億円

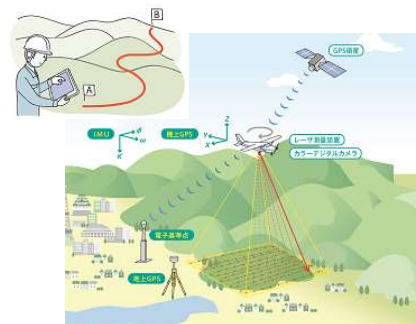
林業の生産力強化

持続可能な社会に向けた  
「あいちのスマート林業」実現プロジェクト

本県の充実した森林資源を生かす「伐る・使う→植える→育てる」循環型林業は、SDGs（持続可能な開発目標）の理念を体現し、持続可能な社会の実現に貢献するものです。この循環型林業を推進するため、「スマート林業の推進」と「都市部における木材利用の推進」に取り組みます。

- スマート林業の推進
  - ・ 航空レーザ計測による詳細な森林資源情報や地形情報を一元管理するシステムの開発・活用
  - ・ 林道等の整備の推進や高性能林業機械の計画的で効率的な活用を促進
- 都市部における木材利用の推進
  - ・ 木材の魅力発信及び木材利用の意義の理解促進

等



スマート林業イメージ

目標：木材生産量 18.0万m<sup>3</sup>



水産業の生産力強化

豊かな海の再生に向けた  
漁業生産力強化プロジェクト

漁場の造成、栽培漁業の拡充や資源管理の強化、新しい増養殖技術の開発・導入、漁業生産に必要な栄養塩量の確保など、新型コロナ等の不測の事態にもしっかりと対応しうる漁業生産力の強化を推進します。

- 漁場や増殖場の造成
  - ・干潟・浅場や魚礁漁場及び貝類増殖場の造成などにより、水産資源の回復を推進
- 水産資源の増大や有効利用
  - ・栽培漁業センターにおける新規魚種の生産など栽培漁業の拡充
- 栄養塩量の確保
  - ・下水道放流水のりん増加試験運転の実施、漁業生産に必要な栄養塩量の算定やその確保の推進



貝類増殖場と碎石に付着したアサリ

等

▶ 目標：漁業産出額 410億円

県産農林水産物の需要拡大  
と農山漁村の魅力向上

アジア競技大会に向けた  
あいちの農林水産業魅力向上プロジェクト

国内外から多くの観光客が来県するアジア最大のスポーツの祭典であるアジア競技大会等の機会を活用し、愛知県産食材等の供給やあいちの花によるおもてなしを行い、また、愛知の魅力ある農山漁村を多くの人に訪れてもらうことで地域の活性化につなげるため、県産農林水産物のPRや農山漁村の魅力向上に取り組みます。

- 県産農林水産物の需要拡大
  - ・トップセールスや各種メディアを活用した情報発信などによる県内外に向けたPR
  - ・日本一の「花の王国あいち」を広くPRし、花きによるおもてなしや花贈り文化の普及を推進
- 農山漁村の魅力の向上
  - ・農業観光ルートの新規創出等を通じたインバウンド需要の安定的な確保



トップセールス

▶ 目標：県産農産物等を優先して購入したい県民の割合 25.0%

農山漁村地域の  
防災減災対策

安全・安心な暮らしを守る  
農山漁村地域防災・減災プロジェクト

全国有数の農業県・日本一の産業県あいちを支える県土の強靱化を進め、安全で安心できる農山漁村の豊かな暮らしを実現するため、ハード・ソフトを適切に組み合わせた防災・減災対策を総合的に推進します。

- 防災・減災機能の向上（耐震化等の推進）
  - ・ 排水機場等の農業水利施設の耐震対策及び機能低下の状況に応じた更新整備を推進
- 森林・農地の多面的機能の維持
  - ・ 間伐等の適切な森林整備を推進
- ソフト対策の充実
  - ・ 被災後に排水機場を早期に稼働させるため、施設管理者の管理体制を強化



ため池の耐震対策

等

目標：農山村地域の防災・減災面積 5年間で6,500ha

## 5 基本計画の達成に向けて

### ■ 基本計画の推進

県は、農林水産業関係団体、県民などと役割を分担し、協働しながら、また市町村との連携を図りつつ、基本計画に掲げた施策を総合的かつ計画的に推進します。

農林水産業関係団体、消費者団体、学識者などで構成する「食と緑の基本計画推進会議」を開催し、計画の進捗確認を行うとともに、必要に応じて計画の見直しを行います。

### ■ 基本計画の進行管理

基本計画の的確な推進を図るため、具体的な施策や事業の取組状況などをまとめたレポートを毎年度作成し、進行管理を行います。

基本計画に掲げた目標について、毎年度進捗を確認し、評価するとともに、その結果を翌年度以降の事業立案等に反映させていきます。